

ほけん通信。

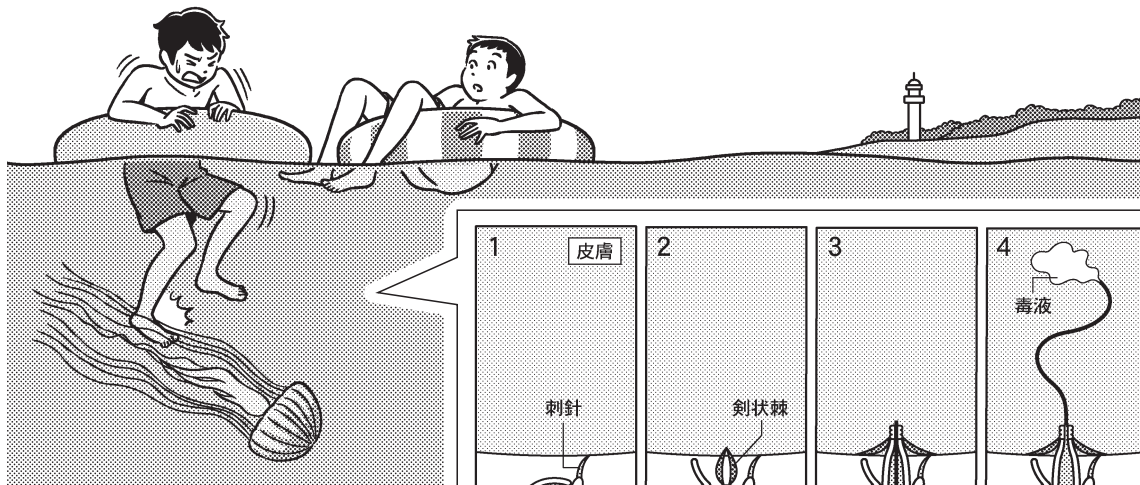
学校 年 月 日発行

クラゲの毒による皮膚炎に注意

指導 かりゆしファミリークリニック 院長 田村 剛三 先生

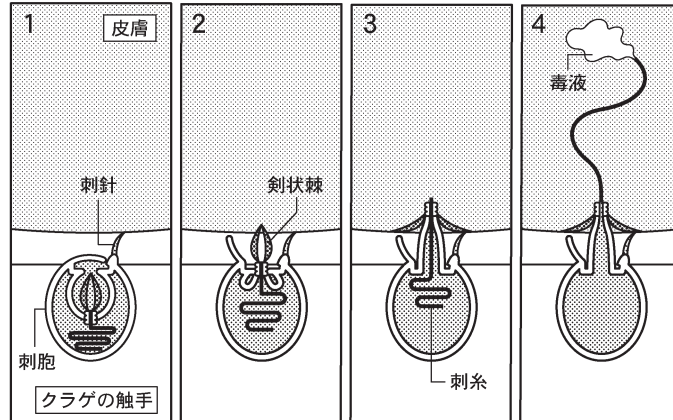
梅雨が明ければ、暑さの厳しい夏がやってきます。海のレジャーで出会うクラゲには、強い毒を持つものもいるので、刺されないように予防をしてください。日本近海で被害の多いクラゲの特徴や、クラゲに刺されたときの対処方法を学んで、海を安全に楽しみましょう。

クラゲに刺される仕組み



クラゲの刺し傷

長い触手に触れると、線状の赤い湿疹ができます。



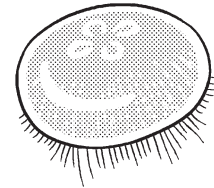
- 1、触手の表面にある刺針が皮膚に触れたことを感知する。
- 2、刺胞から剣状棘が飛び出し、皮膚を突き刺す。
- 3、反射で刺胞の中身が飛び出す。
- 4、刺糸が体内に入り込み、毒液が注がれる。

クラゲの触手には毒針や毒液が入った小さな袋（刺胞）が多くあり、何かに触れると毒針が飛び出して刺さり、毒を注入する仕組みになっています。刺されると強い痛みを伴って、皮膚に線状の赤い湿疹（みみず腫れ）ができたり、水ぶくれを起こしたりします。

この面のみ複写して生徒に配布できますので、学校名を入れてご利用ください。また、保護者に配布する目的に限り、出典を明示し、この面をスキャンしてホームページまたはメールで配信することができます。

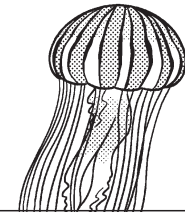
被害の多い主なクラゲ

ミズクラゲ



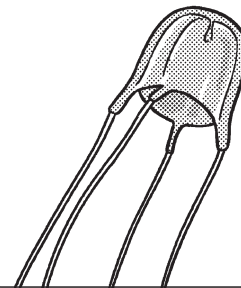
無色透明で、かさに4つの丸い模様があり、短い触手を多く持つ。

アカクラゲ



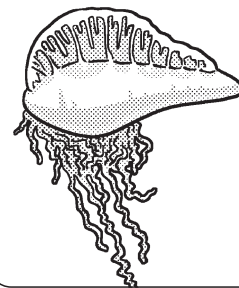
かさには褐色のしま模様があり、1m以上の長い触手を多く持つ。

アンドンクラゲ



無色透明で、かさは3～4cmほどと小さい。水中では見えづらく、気づかいうちに刺されてしまう。4本の長い触手を持ち、刺されるとみみず腫れができる。

カツオノエボシ



10cmほどの青く透き通った浮き袋と、長い触手を持つ。風を受けて移動し、浜辺に打ち上がることも多い。触れると水ぶくれができる。嘔吐や呼吸困難で死亡した例もある。

クラゲに刺されたらすぐに対処



遊泳中に痛みを感じたら、すぐに海から出て、周囲に助けを求めます。

救護室があれば、処置を受けましょう。

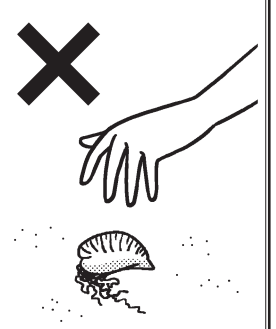


海水などで触手を取ります。刺された範囲が広く、痛みが強い場合は、医療機関を受診してください。

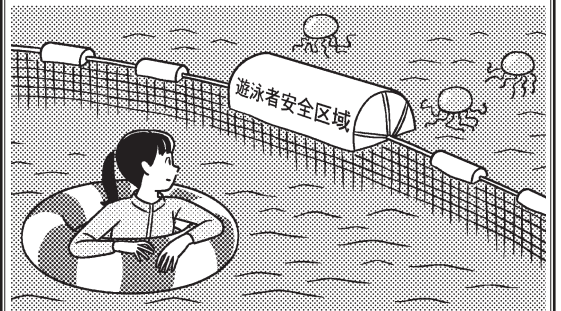
クラゲに刺されないために



ラッシュガードなどの水着で肌を覆います。



浜辺に打ち上がったクラゲにも触りません。



安全な遊泳区域で泳ぎます。



弊社のインターネットサービス「SeDoc」の「保健室」内で、このページのデータがダウンロードできます。